

優れた子犬を繁殖したいのは誰もが臨む事であるが、なかなか思う様にいかないのが世の常である。シーズンにたった雌にどんな雄を組み合わすかを考える事が出発点である事は当然の事である。運に任せた交配でもとても良い結果が得られる事もありますが、しかし、それは、偶然の結果であり、確立の良い筈がありません。両親の優れた点をより高い確立で子孫に伝える事を考えた計画的な繁殖こそが、大切だと考えます。其為には多分に遺伝学の知識が必要になって来ますが、詳しく述べるには紙面が足りないのです、要点だけを簡単に書きます。

犬の特長は全て両親から受継いだ遺伝子で作られるのですが、遺伝子は雄からの一つと、雌からの一つがペアになり初めて作用するのです。次の世代にも其ペアの遺伝子の半分と配偶者の半分とがペアになり遺伝子を伝える訳です。だから交配されて新しい遺伝子のペアが出来る為には雄、雌は全く同等の貢献をする訳です。往々にして雌が軽んじられがちなのを考え直すべきであることを、此処で強調しておきます。

遺伝子には、優性と劣性の二種類がありますから、ペアの遺伝子には其組合せが三通りあります。1) 父母から共に優性を受継いだ時。 2) 共に劣性を受継いだ時。 3) 片方から優性、もう一方から劣性を受継いだ時です。1) の場合は純粋な優性の特長となって現れます。2) は劣性の特長がそのまま現われます。3) が問題で、全部優性のかたちで出るものもあれば、一部だけ優性になる事もあり、不安定です。両親に似ていない子犬が出るのはこの時です。

例えばラブラドルの毛色についていえば、黒、黄、チヨコレートの三色がありますが、ラブの基本的な色は黒で、黒色は優性、黄色は劣性です。又チヨコレートは遺伝子の優劣がはっきりしていません。純粋優性でないことがはっきりしています。

此処で黒と黄色の交配組合せをしてみましよう。先ず黄色どうしの交配では前に述べた2) に当り、全て黄色の子犬が生まれます。黒色と黒色の交配の場合はそうはいきません。1) の遺伝子を持ったどうしの組合せでは全て黒色の子犬が生まれますが、1) の遺伝の片親と3) の遺伝子を持った半純粋優性の片親との間の子犬はやはり黒色ばかりに

なります。が、その子犬の半分は純粋優性の遺伝子を受継いでおり、後の半分は半純粋優性の黒である。

又、3(1)に当る半純粋優性とうしの黒色の子犬は黒3黄色1の割合になり、その黒の内1は純粋優性、2は半純粋優性を受継ぐのです。

1(1)の遺伝子の黒色と2(1)である黄色との交配では全部黒い子犬が生まれます。そして、全子犬が3(1)の遺伝子を持つ訳です。

最後に3(1)の遺伝子の黒色と黄色との組合せでは黒と黄が半々に生れます。そしてその黒い子犬達は全部3(1)の遺伝子を受継ぎます。以上の様に毛色ひとつにもこうした遺伝が絡んでおり、瞳の色、性格など沢山の特性が遺伝して行くわけです。ですから、自分の持ち犬の配偶者を選ぶには優秀な所の遺伝力が強い相手を選ぶべきです。それには血統書を通じて父母、祖父母、曾祖父母のどこから長所を受継ぎ、どこから短所を受継いでいるかを調べると良いでしょう。又一般にはその犬が固体として際立って優れていること(シヨウで活躍しているのはそうした犬)も大事な事のひとつです。それと今迄に出来た子犬達に優秀なのがどれだけいるかも相手を選ぶ参考材料の重要な点です。次に繁殖の方法について一筆致します。それには三つの方法があります。

A(アウトクロスイング(異系繁殖))

B(インブリーディング(近親繁殖))

C(ライン・ブリーディング(系統繁殖))などです。

アウトクロスイングはまったく血縁のないものを交配させる事です。アマチュア繁殖家の多くはこの方法を取っています。低能、虚弱、退化を懸念する為です。しかし、六代、七代と遡ってみると、名血の犬は繫っているもので、本当のアウトクロスイングはありません。なにはともあれ此の方法では初代に期待は出来ません。遺伝学でいうヘテロシス(雑種が両親より異常に発達する事)の為に思いもかけぬ良い結果を生む事はあっても、性格的に粗暴で、子犬達に均一性がありません。すーっと先の繁殖を考えて、一時的に此の方法で出来た犬を利用するのに使えばよいのです。

インブリーディングとは近親犬どうしを交配する方法です。親と子、兄妹、異母兄妹の交配です。全ての犬種が向上して来たのは此の方法に負う所が大なのです。此の方法は好ましくない劣性遺伝子を表面に出す性質が有るので、

それが現れたら淘汰しなくてはいけません。好ましいものだけを残し、悪いものは追放する決断を要します。理想に適った全てが類似している近親犬がいれば躊躇する事なく試みるべきです。

ラインブリーディングはあまり近親でない血の繋りのあるものどうしの交配で、従兄妹、祖父と孫娘、伯父と姪等の交配です。これはA)とB)の中間にある最も安全な方法といえます。しかし、血はかなり近く、B)の性質にあらずかっているので慎重にする必要があります。

交配するに当って、もうひとつ気を付ておきたおことが有ります。それは同じ欠陥を持つ犬どうしを交配しない事です。欠陥が互いに平均化する事は絶対にはないのです。それが遺伝の仕組みなのですから……。ある所に欠点のある犬に対しては、長所を持った相手を選ぶ事は大事な事です。

以上私の知っている知識を総めて述べましたが、ブリーダーとしては先輩の皆さま方には退屈な話になったかもしれません。自分の知識を復習するつもりで読んで頂けましたら幸甚に存じます。